

## 後期主題

「心をひらき、未来をひらく」(マルコによる福音書 2 章 21 ~ 22 節)  
“Open Your Heart, Open the Future.” (MARK2:21-22)

### 主題聖句

21 だれも、織りたての布から布切れを取って、古い服に縫ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい布切れが古い服を引き裂き、破れはいつそうひどくなる。22 また、だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ。

編集 広島女学院大学宗教委員会

〒732-0063 広島市東区牛田東 4-13-1 TEL (082) 228-0386  
http://www.hju.ac.jp/ E-mail:hjucac@gaines.hju.ac.jp

## 「縫ぎ当ての布 ー 心をひらき、未来をひらく」 (マルコによる福音書 2 章 21 ~ 22 節)

大学宗教委員長 栗津原 淳

2013年にデザイナーの三谷武氏によって京都に設立されたアパレルブランド「MITTAN (ミタン)」は、何らかの理由で着られなくなった自社製品を買い取り、修繕と染め直しを施すことによって、一つ一つの服を新たな購買者に届けるという珍しい取り組みをしている。その背景には、単なるファッションの枠を超えた「永く続く服」という強いこだわりと哲学がある<sup>1</sup>。

「作った限りは責任を持って、新しい形で届けていきたい」という三谷氏の思いとともに、タンスに眠っている、あるいは廃棄される可能性のある服に新たな価値を与えて循環させる仕組みを模索している。

修繕に関しては、購入時期や店舗、商品のコンディションを問わず、自社の縫製スタッフが丁寧に繕い直しをする。穴が開いた箇所当て布をしたり、あえてハンドステッチを施したりすることで、修繕箇所を新たなデザインとして生まれ変わらせることもある。「捨てるという選択肢はない」というポリシーが、この活動を支えている<sup>2</sup>。

染め直しとは、藍、草木、墨、ベンガラなどの天然染料を用いて、色が褪せたり汚れたりした衣服を再び新鮮な状態へと蘇らせることである。

シャツなど商品の下げ札にはQRコードが掛けられていて、製品や素材の詳細を公開している。三谷氏いわく、商品一つ一つには作り手や生産地の背景があり、衣服の成り立ちを知ることによって使う側の愛着が深まり、結果としてより永く大切に穿着てもらえるようになる<sup>3</sup>と信じているからだという。服を単なる消耗品ではなく、繕いながら共に時を刻む「相棒」と捉える哲学は<sup>3</sup>、一過性のトレンドを追い、短いサイクルでの消費を促すファストファッションとは真逆ともいえる。

Mittanが掲げる「永く続く服」という哲学は、現在のファッション業界においては少数派かもしれない。しかし、近代の工業化以前、衣服が人の手によって生み出されていた時代には、それはごく当たり前の向き合い方であった。その一端を示すのが、マルコによる福音書 2 章 21 節に記された次の言葉である。**「だれも、織りたての布から布切れを取って、古い服に縫ぎを当てたりはしない。そんなことをすれば、新しい布切れが古い服を引き裂き、破れはいつそうひどくなる。」**

この言葉は、イエスの時代の衣服事情を背景にすると、その意味がより明確になる。当時の衣服は、現在のような大量生産された既製品ではなく、手織りの布を仕立て、破れれば繕いながら長く使うものであった。織りたての新しい布は、まだ洗濯や使用による縮みが生じておらず、古い布とは伸縮率や強度が異なっていた。そのため、新しい布を古い服の縫ぎ当てに使うと、洗濯などによって新しい布が縮み、古い布を引っ張ることで、かえって破れを広げてしまう。イエスは、この身近な衣服の経験をたとえとして用い、古いものと新しいものを単純に縫ぎ合わせることの難しさを示したのである。

しかし、このたとえは、単に「古いものと新しいものは相容れない」という意味だけではなく、私たちがさまざまな経験や出会いを重ね、変化していく過程には、これまでの自分との衝突

や心の葛藤が生じることがある。その一方で、そうした経験や出会いを受け入れ、工夫しながら自分自身に取り入れていくことで、新たな自分へと変化していく可能性もある。

さまざまな工夫を施しながら縫ぎ当てられた布は、以前の布の面影を残しながらも、新たな風合いを持つ一枚の布へと生まれ変わっていく。それは、私たちの人生にも通じるのではないだろうか。さまざまな人との出会いや経験を重ねるなかで、これまでの自分に新たなものが加わり、それによって少しずつ新しい自分が形づくられていくのである。

また、成長して身体に合わなくなった衣服であっても、繕ったり、別の形に仕立て直したりすることで、ほかの誰かの役に立つことがあるかもしれない。古いものがその役割を終えるのではなく、新たな形で誰かの生活を支えることもある。衣服を大切にし、繕いながら長く使うという営みは、物を大切にすることだけでなく、人と人とのつながりや、過去から未来へと何かを受け渡していくことの意味についても、私たちに考えさせるのである。

続く 22 節もまた、新しいものと古いものが出会うことについて、示唆に富んだたとえである。

**「だれも、新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりしない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。新しいぶどう酒は新しい革袋に入れるものだ。」**

この言葉も、イエスの時代の生活に根ざしたたとえである。当時、ぶどう酒は主に動物の皮で作った革袋に保存されていた。新しいぶどう酒は、発酵が進む過程で二酸化炭素のガスによって体積が増加する。そのため、柔軟性を失った古い革袋に入れると、発酵による膨張に耐えられず、革袋が裂けてしまう。一方、新しい革袋には伸縮性があり、発酵による圧力を受け止めることができる。このたとえを通してイエスは、新しいものを受け入れるためには、それにふさわしい新しい器が必要であることを示している。単に古いものに新しいものを付け加えるのではなく、新しい内容に応じた、器そのものも変えていく必要があるということである。

このたとえを私たち自身に重ねて考えてみることもできる。発酵によって体積が変化していく新しいぶどう酒を受け止めるためには、それに見合った新しい革袋が必要である。同じように、さまざまな経験や出会いを通して成長し、変化していく私たち自身にも、その変化にふさわしい「器」が必要なのではないだろうか。

成長した自分を、以前の自分と同じ枠の中に押し込めようとすれば、どこかに無理が生じる。新しい経験によって考え方や価値観が変わったなら、それを受け止めるために、自分自身のあり方やものの見方もまた変えていく必要がある。新しい自分には、新しい自分にふさわしい「衣服」が必要なのである。

衣服は、単に身体を覆うものではない。身体の成長に合わせて大きさを変え、季節や生活の変化に応じて、その役割も変わっていく。私たちの人生も同じである。これまでの経験を大切にしながらも、新たな出会いや経験によって変化した自分を受け入れ、それにふさわしい「器」をつくっていく。その積み重ねによって、私たちは少しずつ新しい自分へと成長していくのである。

<sup>1</sup> MITTAN <https://mittan.asia/>

<sup>2,3</sup> 繕って、染め直して、永く着続けるという選択肢を。アパレルブランド「MITTAN」が提案する「現代の民族服」とは | しゃかいか!  
[https://www.shakaika.jp/blog/36302/mittan/?utm\\_source=chatgpt.com](https://www.shakaika.jp/blog/36302/mittan/?utm_source=chatgpt.com)

# 秋期宗教強調週間

特別講演会講師

はま だ ゆう ぞう  
濱田 裕三 先生(日本キリスト教団東広島教会牧師)  
ミルキーハウスの皆さま

プログラム

10月12日(月)～16日(金)は、秋季宗教強調週間です。

\*10月13日(火) 「キリスト教の時間」 13:00～13:45(ゲンスチャペル)  
「弱さを絆に一神の力が豊かに働くところー」

コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章9～10節

講師 濱田 裕三 先生(日本キリスト教団東広島教会牧師)

\*10月14日(水) 特別講演会 13:00～14:30(砂本記念講堂)

「イエスの食卓をいっしょに作ろうー「弱さの物語」を分かち合う場ー」  
マルコによる福音書2章13～17節

講師 NPO 法人ミルキーハウスの皆さん、濱田 裕三 先生

★講師を囲む懇談会 14:45～15:45(ゲンスチャペルロビー)

\*10月15日(木) 「木曜日チャペル」 12:30～12:50(ゲンスチャペル)

学生活動報告「折りづると平和」国際英語学科 3年 佐々木 環寧さん

◆学内献血 10月26日(月) 受付 12:30～16:30(ヒノハラホール前)



## 講師紹介

はま だ ゆう ぞう  
濱田 裕三 先生

日本キリスト教団東広島教会 牧師、NPO 法人ミルキーハウス 所長、精神保健福祉士  
奈良県山添村生まれ

日本福祉大学(愛知)で社会福祉を、農村伝道神学校(東京)で神学を学ぶ

日本キリスト教団浦河教会(北海道)・社会福祉法人浦河べてるの家(1995～2005)

日本キリスト教団広島南部教会・フレーザー幼稚園(2005～2017)

日本キリスト教団東広島教会・ミルキーハウス(2017～現在)

## 地域活動支援センター ミルキーハウス

ミルキーハウスは、主に精神障がい者の日中活動の居場所やプログラムを提供し、様々な支援をしている小さな福祉事業所です。「手を動かすより、口を動かそう」をキャッチフレーズに、雑貨等をつくる請負作業、レクリエーション、語りのプログラム(心理療法、マイストーリーの時間など)をおこなっています。日本キリスト教団東広島教会・ミルキーハウス(2017～現在)

## 学生へのメッセージ

「こんなものなけばいいのに！」みなさんは捨ててしまいたい、隠しておきたい、封印したい、変えたい、そんな自分にまつわる生きづらさ、失敗、容姿、性格、出来事、モノ、人間関係などはありませんか。

私たちは現代社会が生み出す「ドミナント・ストーリー(強さ、成功、支配の物語)」に幻惑され、社会のモノサシで自分や他者を評価し、比較し合い、つながりを失い、自己肯定できずに苦しんでいます。私たちは「弱さ」にまつわる「私の物語」を語れずにいます、ないがしろにしようとしています。

私はながく、「強さ」の文化から周縁に追いやられた精神障がいを経験した人たちが「弱さ」を語り合う場に身を置いてきました。「ドミナント・ストーリー」ではなく「オルタナティブ・ストーリー(もう一つの物語)」を分かち合う場です。彼ら彼女らの姿に触れると、いらない、捨てようとしていた「弱さ」は、実は「宝」かも知れない、人と人をつなぐ絆かも知れないと思えるようになりました。イエスの食卓は、この「弱さ」を語り合う場だったのでないかと想像するのです。大切な一人一人として尊重し合える、しかも「弱さ」を語り合ってつながれる安心できる場をつくっていきませんか。

## 報告

## 8.6平和学習プログラム 開催報告

8月4日(火)から8月6日(木)まで「2026年度第26回8.6平和学習プログラム」を開催いたしました。敬和学園大学、本学授業科目「異文化理解入門」を受講する学生、平和に関心のある本学学生、教職員から参加がありました。

4日(日)は、開会礼拝・オリエンテーションを実施後、広島平和記念公園へ移動し、平和記念資料館の見学および碑めぐりを行いました。碑めぐりでは、高橋信雄さん(広島教育研究所理事・広島県原水協代表理事)にご案内いただきました。夕刻には参加学生および教職員による懇親会を開き、広島名物のお好み焼きを囲みながら親睦を深めました。

5日(月)は、関西学院大学との共催科目「ヒロシマと平和」の受講生とともに特別講義を受講しました。講師にはドウロー アーゴタ先生(本学准教授)、西河内靖泰先生(元特任准教授・現非常勤講師)、松永京子先生(広島大学大学院准教授)をお招きし、また、豊永恵三郎さん(韓国の原爆被害者を救援する市民の会 広島支部 元支部長)より貴重な被爆証言をお伺いしました。講義後は、本学図書館の「栗原貞子記念平和文庫」を見学しました。

6日(日)は、広島女学院中学高等学校にて行われた広島女学院平和記念式に参列後、ランチミーティングで振り返りと意見交換を行いました。最後に栗津原淳大学宗教委員長の閉会の祈りで本プログラムは無事終了しました。

## 敬和学園大学

人文学部 英語文化コミュニケーション学科 2年生  
藤塚 かりんさん

「8.6平和学習プログラム」には昨年度に引き続き今回が2回目の参加となりました。重ねて参加することで、深い知識を得た上で改めて広島平和記念資料館の展示を見たり、広島女学院大学の先生方のお話を伺うことができ、より深く大切な知識として胸に刻むことができました。



1日目の平和記念公園碑めぐりでは、案内してくださった高橋さんのお話がとても丁寧で、特に韓国人被爆者の背景を説明してくださったおかげで、事実を知ることができ、翌日の授業の内容にも繋がり、とても勉強になりました。2日目の特別授業では、被爆者の方から実際に当時のお話を伺うことができ、2年連続で被爆証言を聞くことができ、被爆者や戦争を体験された方々が少なくなっている現在においてとても重要で貴重な体験となりました。お話をくださった方々の話を胸に、新潟という離れた地でも語り継いでいきたいと思います。交通手段の関係で、3日目の最後のディスカッションには残念ながら参加することができませんでしたが、広島にも私たちと同じように戦争を知らない世代がいて、それでも歴史を学び、しっかり語り継ごうとしているのだと実感しました。この充実した3日間の体験を忘れずに、新潟で平和や歴史を発信する者として広島の方々に学んだことを真摯に語り継いでいこうと思います。大変貴重な体験、誠にありがとうございました。

人文学部 英語文化コミュニケーション学科 2年生  
大上 そらさん

この3日間で広島平和記念資料館や原爆ドームを実際に訪れ、自身の目で確かめたことが非常に印象深く、有意義な体験となりました。高橋さんによる被爆樹木や慰霊碑などのお話を聞くことができ、より深く戦争について知ることができました。この3日間を通して今生きている私たちはとても幸せなのだと、そのことをしっかり噛み締めながら生活しなければならないと同時に、当時の状況を語る方が年々少なくなっているということも忘れてはならないのだと改めて考えさせられました。

## 人文学部 共生社会学科 2年生 江平 咲菜さん

8.6平和学習プログラムに参加して、私は「平和について学ぶこと」そのものについて考えるようになった。



戦争を経験していない私たちが、当時の苦しみを本当の意味で理解することはできない。それでも、分からないからこそ想像することをやめてはいけないのだと思った。印象に残ったのは、平和とは特別な何かではなく、戦争について考えなくても生きていける毎日のことなのではないかということだ。普段は当たり前すぎて気づかない「今日も普通に一日を過ごせた」という事実も、過去の歴史を知った後では違って見えた。今回得たものは知識だけではなく、当たり前の日常を「当たり前」と思い続けない視点だった。

#### 人文学部 国際教養学科 1年生 木村 仁美さん

広島に行くのは初めてだったのですが、平和記念公園で資料館の見学や碑めぐりを体験できて、改めて原爆の恐ろしさや被爆者の苦しみについて考えるきっかけとなりました。広島女学院大学での特別講義・被爆証言を聴くことができたことは、原爆が投下された事実だけではなく、その背景を深掘りすることで、一方の側面のみならず多角的な視点で物事を見る重要性和「知ること」の大切さを再認識できました。また、広島女学院平和祈念式で行われた「被爆証言集朗読劇」は、生徒たちの迫真の演技に鳥肌が立つほど引き込まれ、声として届けられる当時の悲惨さに心を打たれました。その他にも、交流会や図書館見学、ランチミーティングなど有意義な時間を過ごし、たった3日間とは思えないほど濃密で貴重な経験となりました。今回のプログラムを企画してくださった皆様、お世話になった先生方、広島の学生さんたち、関係者全員に感謝します。とても充実した3日間でした。ありがとうございました。また来年会えることを願っています。



#### 人文学部 国際教養学科 1年生

佐々木 海明さん

8.6平和学習プログラムに参加し、初めて平和記念公園や平和記念資料館、原爆ドームに行きました。平和記念資料館では、たくさんの戦争の写真や資料を見ることができ、色々なことを考える機会になりました。平和記念公園内の碑めぐりでは、高橋さんの解説がわかりやすかったです。交流会ではお好み焼きをお店で食べられるとは思わず、焼きもみじまんじゅうなども食べることができてとても美味しかったです。特別講義では、戦争の現実や詳しい内容を知ることができました。その際もらった資料は、今後の学習に活用していきたいです。被爆証言では、被爆者手帳を見せていただくなど、貴重な経験をさせていただきました。広島女学院大学の図書館も見せていただき、本と資料の多さに驚きました。広島女学院平和祈念式では、放送部の朗読劇がとても心にきました。8.6平和学習プログラムに参加させていただき、ありがとうございました。

#### 人文学部 国際教養学科 1年生 佐藤 晴輝さん

今回、8.6平和学習プログラムに参加して、自分はまだ知らないことが多いと感じました。どのプログラムもとても良かったです。その中でもここでは最後のプログラムについて書いてみます。振り返りと意見交換では、住んでいる県や国によって平和学習の内容が大きく違うことに驚きました。特に、広島の学校でも、学校によって平和学習をしっかりと行っているところもあれば、あまり行っていないところもあることにびっくりしました。同じ広島でも平和学習の取り組み方に違いがあることを知り、平和について学ぶ機会は当たり前ではないのだと感じました。また、最後に話し合った「平和のために自分たちにできることは何か」という問いでは、参加した人それぞれの意見があり、どの意見もとても良いと思いました。私自身は音楽をやっているのでも、音楽を通して平和を伝えていきたいと思いました。核兵器ではなく、音楽を通して平和の大切さを伝えられる人になりたいです。このプログラムに参加して、平和について改めて考えることができました。また来年も参加したいです。ありがとうございました。



# 広島女学院大学

人間生活学部 児童教育学科 1年生

宮崎 万里菜さん

私は今回、この日程では広島女学院大学から単身での参加となったため、最初は非常に緊張し不安を感じていました。敬和学園大学の学生さんたちが本当に仲良く温かく受け入れてくださり、3日間とても充実した実りある時間を過ごすことができました。私は将来の目標が少し「平和」と関係があるため、このような平和を学ぶ機会には積極的に参加しています。今回の3日間では、今までたくさん参加した何よりも深いところまで学ぶことができました。3人の教授方の講義、被爆証言や平和公園での案内を受けることができ、大変勉強になりました。広島市に住んでいると、就学前や小学生の頃から毎年かなり原爆についてなどの平和学習をする機会がありますが、毎年まだ知らなかった新しい知識を身につけることができることに驚きます。また参加したいと思っています。

人文学部 国際英語学科 1年生 川上 莉奈さん

今回参加して、平和について改めて深く考えることができました。原爆で傷ついた人は広島や長崎の人々だけではなく、朝鮮半島出身の人々でもあると知りました。その当時は朝鮮半島出身という理由だけで日本人と同じように手当てしてもらえなかったと知って、酷いことをしていたのだと心が痛みました。現在、被爆者が少なくなっているため、今回聞いた話を自分で理解し、考え、他者に伝えていく必要を感じました。アメリカは原爆投下を平和のためにしたことだと主張していると知って、私は戦争をし、核兵器を使うことは平和を壊すことだと考えるので、その主張は間違っていると思いました。これから平和な世の中を作っていくためにも戦争はしてはいけないと強く強く感じています。あの悲惨な出来事を繰り返さないために自ら進んで政治に参加し、自分たちで平和な世の中を作りたいと思います。今、家族と一緒に過ごせ、学校に通っているこの環境を当たり前だと思わず感謝して、1日1日を大切に過ごしていきます。

国際英語学科 1年生

DANH THI CAM TIEN (留学生、ベトナム)さん

今回の経験を通して、戦争によって失われたものの大きさは、言葉では表せないほど深いものだと感じました。そして、「無知は罰」という言葉についても深く考えました。残された私たち、特に若い世代が何も知らず、何もしなければ、過去の苦しみを忘れてしまうかもしれません。だからこそ、私はこれからも歴史を学び、戦争

の苦しみや核兵器の脅威を忘れないようにしたいです。そして、一人の若者として、自分に何ができるのかを真剣に考えていきたいと思います。今の私にできることは小さくても、その一歩が未来につながると信じています。

国際英語学科 1年生

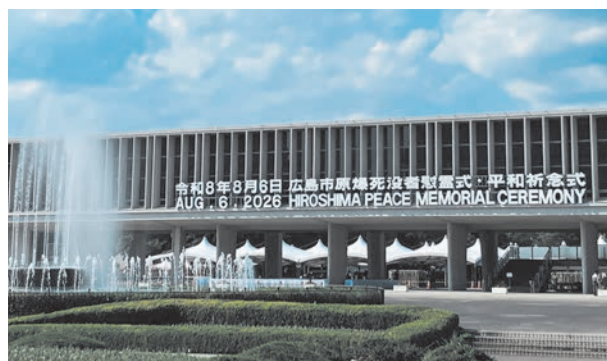
中村 麻莉亜さん

5日の集中講義で学んだことは、知ること、関心を持つことの大切さだ。西河内先生の「原爆と差別～その差別行為を理解する～」という講義の中で紹介された、「知らないってのは、この世の中じゃ、悪意のつぎにわるいことだってことを、おまえは知らないのかね？」(アンナ・シュウエル作、土井すずの訳『黒馬物語』岩波少年文庫、1953年8月)という言葉が強く印象に残っている。「知らない」「知ろうとしない」からこそ人は恐怖を感じ、その対象や物事から離れようとしたり、遠ざけたりする行動をとってしまうのだらうと考えさせられた。先生は、知ること、関心を持続することが大切だと強調されていたので、この言葉の意味をこれからも忘れないようにしたい。

国際英語学科 1年生

吉田 アイビレイ マーガレットさん

小・中・高校生の頃の私にとって、平和記念資料館に並ぶ展示物は、ただただ悲惨な被害の実態を物語るものであり、あの日の怖さ、痛ましい、二度と繰り返してはならないといった直感的で感情的な受け止め方が中心であった。今回、大学生として訪れ、今の視点で見つめ直すと、展示されている遺品や写真のひとつひとつは単なる歴史だけでなく、かつてそこにあった人々の生活や夢、そして家族の日常といったリアリティーを持って胸に迫ってきた。特に今回胸に強く残ったのは、「生きる」「体と心に刻まれた傷」という展示パネルだった。原爆が落とされた時という一瞬の破壊だけではなく、その日からのトラウマ、そして、その後の生活に続いた苦しみがあるのだと突きつけられた。家族を亡くした悲痛な思いや皮膚に残る痛みを耐え、いつ発症するかも知れない原爆症の影に怯えながら過ごす毎日の厳しさも痛感した。一瞬にして日常を奪われながらも、苦難の中で生き抜こうとした人々の生きた証そのものなのだと、言葉以上の重みを持って伝わってきた。



# 2026年度 後期チャペル表 (2026年9月～2027年1月)

後期主題:「心をひらき、未来をひらく」(マルコによる福音書 2章21～22節)

“Open Your Heart, Open the Future” (MARK2:21-22)

| 月  | 日      | 火曜日「キリスト教の時間」<br>13:00～13:45 ゲーンズチャペル                                                                                                                                                         | 司会  | 木曜日チャペル<br>12:30～12:50 ゲーンズチャペル                         |
|----|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---------------------------------------------------------|
| 9  |        |                                                                                                                                                                                               |     | 24 生活デザイン学科<br>卒業生による講話                                 |
|    | 29     | 「賛美歌を歌おう」 ★聖歌隊<br>賛美歌のお話と歌唱指導 広島女学院大学オルガニスト 玉理 照子先生<br>(広島女学院同窓生、日本キリスト教団讃美歌委員)                                                                                                               | 玉理  |                                                         |
| 10 | 6      | 広島女学院創立記念礼拝<br>学長 渡部 佳美 先生<br>☆ゲーンズ学術奨励賞授与式                                                                                                                                                   | 栗津原 | 8 管理栄養学科 実験実習助手<br>大村 紗弥香 さん                            |
|    | 13 (火) | キリスト教の時間 13:00～13:45 (ゲーンズチャペル)<br>「弱さを絆に一神の力が豊かに働くところ」 コリントの信徒への手紙Ⅱ 12章9～10節<br>濱田 裕三 先生(日本キリスト教団東広島教会牧師)<br>司会:大学宗教委員長 栗津原 淳 先生                                                             |     |                                                         |
|    | 14 (水) | 特別講演会 13:00～14:30 (砂本記念講堂) ★聖歌隊<br>「イエスの食卓をいっしょに作ろうー「弱さの物語」を分かち合う場ー」 マルコによる福音書 2章13～17節<br>濱田 裕三 先生(日本キリスト教団東広島教会牧師)、ミルキーハウスの皆さん<br>★講師を囲む懇談会 14:45～15:45(ゲーンズチャペルロビー)<br>司会:大学宗教委員長 栗津原 淳 先生 |     |                                                         |
|    | 15 (木) | 木曜日チャペル 12:30～12:50 (ゲーンズチャペル)<br>学生活動報告「折りづると平和」 国際英語学科 3年 佐々木 環寧 さん<br>司会:大学宗教委員長 栗津原 淳 先生                                                                                                  |     |                                                         |
|    |        |                                                                                                                                                                                               |     | 10月26日(月)<br>◆学内献血 12:30～16:30<br>ヒノハラホール前              |
|    | 20     | 後期主題解説<br>「心をひらき、未来をひらく」(マルコによる福音書 2章21～22節)<br>大学宗教委員長 栗津原 淳 先生                                                                                                                              | 栗津原 | 22 【学生活動報告】<br>管理栄養学科 3年 池田 千乃 さん<br>「ピアノプロジェクト」        |
|    | 27     | JICA 国際協力出前講座<br>松田 智子 さん<br>(JICA 海外協力隊隊員 派遣国:ブラジル、モロッコ 職種:日本語教育)                                                                                                                            | 矢吹  | 29 留学生別科準備室長<br>有田 聡子 先生                                |
| 11 | 3      | 李 東振(イ ドンジン) 先生(本学 児童教育学科 専任講師)                                                                                                                                                               | 関戸  | 5 日本文化学科<br>一藤 浩隆 先生                                    |
|    | 10     | 「Advanced Care Program について - ACP (人生会議)してみませんか?」(仮)<br>三村 麻由美 さん(保健師 学生支援課健康管理室長)                                                                                                            | 矢吹  | 12 経営企画課企画戦略室<br>田口 誠一郎 さん                              |
|    | 17     | 東区連携健康講座<br>「女性特有のがんを中心とした女性の健康づくりについて」<br>東区地域支えあい課 医師 石崎 宏美 先生                                                                                                                              | 下岡  | 19 生活デザイン学科<br>関戸 智大 先生                                 |
|    | 24     | 本学院同窓生からのメッセージ<br>山下 育美 先生(動物愛護 NPO SPICA 代表 本学卒業生)                                                                                                                                           | 関戸  | 26 【学生活動報告】<br>チャペル委員<br>児童教育学科1年 宮崎 万里菜 さん<br>「人形劇(仮)」 |
| 12 | 1      | 蒲原 靖男 さん(大学事務局長、幼稚園事務長)                                                                                                                                                                       | 矢吹  | 3 経営企画課企画戦略室<br>神田 靖典 さん                                |
|    | 8      | 広島女学院大学人権週間<br>近藤 紘子 さん(被爆の語り部、<br>日米共同制作劇映画「What Divides Us」のエグゼクティブプロデューサー)                                                                                                                 | 栗津原 | 10 児童教育学科<br>薄井 淳 先生                                    |
|    | 15     | クリスマスメッセージ<br>松浦 裕介 先生(日本キリスト教団 広島牛田教会)                                                                                                                                                       | 李   | 17 クリスマスコンサート<br>学生オルガニストによる<br>パイプオルガン演奏               |
|    | 22     | クリスマス音楽礼拝<br>パイプオルガンコンサート<br>演奏:広島女学院大学オルガニスト 玉理 照子 先生<br>ショートメッセージ:大学宗教委員長 栗津原 淳 先生<br>★献金ほか                                                                                                 | 栗津原 | 24 【学生活動報告】<br>国際英語学科 3年<br>柵田 晴香 さん                    |
| 1  | 12     | 「学生生活を振り返って」卒業学年生による感話<br>管理栄養学科 中村 華 さん、児童教育学科 加藤 有桜 さん他                                                                                                                                     | 下岡  | 14 卒業学年生による<br>パイプオルガンコンサート                             |
|    | 19     | 「今年度を振り返って」<br>学長 渡部 佳美 先生                                                                                                                                                                    | 栗津原 | 21 大学宗教委員長<br>栗津原 淳 先生                                  |

※ 「キリスト教の時間」 奏楽:大学オルガニスト 玉理 照子先生